

社会学部紀要 総目次 (第1号～第22号)

執筆名 (ABC順)	題 目	号	頁
〔論 文〕			
張 光 夫	「大衆文化」研究の関連領域と対応概念	2	59
	J. S. ミルにおける功利主義人間性論の修正	9・10	9
	レイモンド・ウィリアムズの文化論	22	15
大 道 安 次 郎	「阪神広域市」構想についての一省察	5	15
	地域社会学の課題と反省	8	1
	定 年 制	9・10	25
	日本老人の余暇の問題	12	5
	老人の社会的役割	13	17
	加藤弘之の一側面	14	17
	建部社会学の偉容	15	3
	遠藤社会学の功績	16	1
	宝塚市の人口分析	17	1
	大阪市周辺都市としての宝塚市	21	51
	ある団地社会の実態の一側面	22	21
遠 藤 惣 一	リーダーシップ研究の展望	5	55
	社会的勢力論	9・10	33
	労使関係論	13	103
	経営に対する一般従業員の態度	14	47
藤 原 恵	新潟地震の新聞報道	9・10	41
	参院選と新聞の態度	12	89
	新聞学を拓いた人たち	15	85
	近代新聞への胎動	20	27
	変革の時代と新聞媒体	22	41
船 本 弘 毅	ディートリッヒ・ボンヘッファーのキリスト論	22	53
半 田 一 吉	英語文型の分類	6	77
	目的語の研究	8	73
	補語を含む英文の型	9・10	49
	副詞の研究 (I)	18	47
	副詞の研究 (II)	22	63
春 名 純 人	倫理と宗教	15	73
	近代および現代神学における理性の自律性の原理 (I)	21	79
	近代および現代神学における理性の自律性の原理 (II)	22	75
比 嘉 正 範	日本詩歌の音数律について	16	79
稻 継 尚	ダーレンドルフの階級論について	19	63
	多元的社会における勢力の問題	22	87
国 分 康 孝	行動科学職業特にケースワークにおける 自己覚知の意義と方法	1	121
	紺田千登史	ベルグソンの知覚論とその問題点	17
	ベルグソンの自由論	22	95

小 関 藤 一 郎	近代的経営者の社会的責任の問題	1	17
	デュルケームの科学論	5	31
	産業社会と個人主義	7	1
	産業社会論について	9・10	57
	フランス労働組合の最近の動向について	13	53
	デュルケームにおけるアノミーと個人主義	14	5
	フランスのビュロクラシーの問題点	15	15
	デュルケームとドイツ	16	9
	アルヴァックスの階級論について	17	41
	フランス社会学における階級研究の文献表	18	73
	行為の社会学の理論について	19	9
	明治期における医師の倫理	20	1
	デュルケームの社会動学的考察について	22	3
熊 谷 一 綱	キリスト教教育者の課題	9・10	67
	教会心理学と神学教育	12	113
	小崎弘道『政教新論』の一考察	20	11
国 歳 真 臣	「マージナル・マン」理論に関する一考察 (I)	19	55
倉 田 和 四 生	構造機能分析の展開	1	101
	T. パースンズの動態論について	3	61
	T. パースンズ理論の展開	6	7
	信仰組織と部落構造	8	15
	近代化論と社会システム変化論についての覚書	9・10	75
	神戸市における人口の集中と拡散	11	17
	郊外における住民組織	12	49
	人口の近代化とアジアの人口問題	16	15
	都市化の理論	19	19
	阪神間6市1町の人口構造と流動パターン	20	41
	日本都市の機能分類 (1965年)	21	91
	人口社会学の構想	22	107
蔵 内 数 太	日本における社会学の成立	2	1
	社会変動の体系的考察のために	4	1
	全体社会の文化型と体制変化について	9・10	87
L. B. Graham	Some Problems in the Japanese		
	Foster Care System (I)	12	41
牧 正 英	問題解決集団に於ける課題役割と社会的役割	1	113
	小集団理論と調査	3	75
	大企業定年退職者の流出過程	9・10	99
萬 成 博	社会階級と社会移動	1	27
	経営者の社会的構成と意識	5	43
	ビジネス・エリート補充の国際比較	9・10	109
	組織の影響と態度の変化	13	65
	工業化と職業移動	14	25
光 吉 利 之	家族：動態分析の一視角	6	21

	江戸時代における農民の家族構成……………	9・10	119
	農民親族組織の展開過程 (I) ……………	16	31
	親族の構造……………	22	147
宮田 満 雄	…… D. H. Lawrence と Spanish America ……………	18	55
	Ernest Hemingway と宗教 ……………	21	21
	Ernest Hemingway における Old Heroes ……………	22	155
森 川 甫	…… パスカルの『パンセ』における「悪」le mal の意味……………	9・10	133
	『プロヴァンシャル』論争の起源と経過……………	16	69
	フランス・キリスト教思想の植村正久への影響……………	20	19
	パスカルの『パンセ』の神学思想……………	21	43
	パスカルにおける理性の意味……………	22	165
本 岡 五 男	…… Stifter の “Bergmilch” について……………	2	49
	叙事詩人としてのカロッサ……………	5	99
	ムシル「グリージャ」について……………	7	35
	Stifter の作品「Witiko」における Witiko 像……………	9・10	141
村 川 満	…… キリスト教叙事詩の成立……………	21	33
	「神の国」と「地の国」……………	22	171
西 尾 朗	…… 英国における中国の映像……………	9・10	157
丹 羽 春 喜	…… ソビエト経済学の脱皮……………	1	61
	ソ連の投資率と資本系数……………	3	41
	ソ連経済成長の単純なエコノメトリック・モデル (1935—1960) ……………	8	43
	ソ連経済成長の単純なエコノメトリック・モデル (改訂) ……………	9・10	167
	ソ連経済成長モデルNo.4 (1935—1963) ……………	13	83
	マルクス主義の「神々のたそがれ」……………	17	69
	「核」戦備のソ連・中共経済への影響……………	22	181
岡 村 重 夫	…… 社会福祉における「市民参加」の概念……………	22	199
太 田 義 弘	…… パストラル・カウンセリングと専門社会事業……………	4	35
	青少年の攻撃性……………	6	31
	コミュニティー・オーガニゼーションの発達とわが国の問題……………	8	31
	地域社会開発と住民参加……………	12	77
領 家 穰	…… 寺院分布と地域評価試論……………	1	39
	時間の社会学的考察……………	3	1
	社会調査における時間の問題……………	9・10	181
	理論社会学の問題……………	11	1
	社会的時間論……………	15	27
	社会的時間論 (2)……………	16	61
定 平 元 四 良	…… 明治期社会主義者の基督教批判……………	9・10	189
	『女学雑誌』について……………	15	97
佐 々 木 薫	…… 寮の門限に関するインフォーマルな集団規範の変動……………	18	29
嶋 田 津 矢 子	…… 少年非行研究の方法論的考察……………	2	29
	結婚カウンセリングとカウンセラー……………	4	17
	結婚における役割行動の研究……………	9・10	197

	少年非行の予測表について……………	12	31
	結婚カウンセリングのケースワーク的發展……………	15	103
	児童福祉と児童手当制度……………	22	227
清 水 盛 光	ギェルウィッチにおける「我等」の概念について……………	22	239
冷 水 豊	Social Action ……………	22	247
塩 原 勉	組織計画の哲学と産業主義……………	9・10	207
杉 原 方	浮浪者のパーソナリティⅢ……………	2	11
	Bellakの精神分裂病の概念(そのⅠ)……………	22	259
杉 本 照 子	自我心理学がソーシャル・ケースワークに果たした影響……………	17	83
杉 山 貞 夫	人間—機械系における Communication について……………	3	17
	人間—機械系の時間的考察……………	5	65
	Comparison of the Influences of Visual Angle and of Variation of Pupillary Diameter seen in CFF-LDR Relation ……………	8	89
	人間工学の一問題……………	9・10	231
	Psychological System Design 試論……………	13	113
鈴木信五郎	広告におけるインフォメーションの意味するもの……………	9・10	237
高 島 進 子	西鶴作品の社会学的考察……………	8	61
(六車)	下村湖人の思想に於ける根本問題……………	9・10	149
	社会と愛……………	12	135
	論語と社会学……………	15	1 縦
武 田 建	ソシオメトリック知覚研究の展望……………	7	15
	ソシオメトリック知覚と対人感情の関係……………	9・10	245
	C. R. Rogers のパーソナリティ理論……………	11	47
	社会事業調査とその問題点……………	12	67
	行動理論のケースワークへの応用……………	22	269
竹 内 愛 二	専門社会事業と宗教……………	1	1
	専門社会事業, コミュニティ・デベロプメント及び市民参加……………	5	1
	「実践福祉社会学」の成立を目指して……………	9・10	253
	社会的リハビリテーションと庇護授産特に善意産業について……………	13	5
田 中 国 夫	進歩的態度に関する因子分析的研究……………	1	49
	社会的態度の構造に関する因子分析的研究……………	9・10	263
	The Organization of the Masses and Their Social Attitude in Contemporary Japan ……………	16	39
	態度構造と変容(Ⅰ)……………	22	279
析 原 知 雄	心理小説の三つの型……………	1	93
	Henry James 1843—1881……………	3	31
	社会喜劇の悲喜劇的人物……………	5	89
	Henry James 作 “The Spoils of Poynton” 論……………	7	25
	Henry James をいかに読むか……………	9・10	271
	Henry James 作 “The Jolly Corner” 論……………	11	37
	Henry James 作 “The Ambassadors” 論……………	13	41
	James 文学にあらわれる女性像……………	14	37

	Henry James と Joseph Conrad	15	115
	文学の研究 (I)	16	85
	文学の研究 (II)	17	93
	文学の研究 (III)	18	63
	文学の研究 (IV)	19	31
	文学の研究 (V)	20	67
	文学の研究 (VI)	21	2
津 金 沢 聡 広	戦後日本の「大衆芸術・娯楽」研究の動向.....	9・10	281
	”小新聞”成立の社会的基盤.....	11	89
	映像的認識についての覚え書.....	16	47
	大衆娯楽と社会不安.....	17	103
	マス・レジャー論覚書.....	22	293
宇 賀 博	マス・コミュニケーション研究の社会学的観点.....	2	67
	フロイト理論のアメリカ社会学への影響.....	4	47
	維持の社会学・変化の社会学.....	9・10	299
	集合行動の概念について.....	11	73
	フロイトの影響について (1).....	12	121
	フロイトの影響について (2).....	13	123
和 田 方 子	『源氏物語』における「愛」の研究 そのI.....	19	71
	『源氏物語』における「愛」の研究 そのII.....	20	85
山 中 良 知	知識形成の道標.....	2	41
	基督教哲学成立の原理.....	4	9
	予定・自由・法則.....	6	1
	カントと十九世紀の社会倫理思想.....	9・10	313
	アウグスチヌスの「神の国」における社会倫理の 概念について.....	11	7
	聖書における労働の倫理.....	12	99
	儒教・蘭学の伝統と近代化の倫理についての試論.....	13	29
	社会倫理学の基本的問題.....	15	65
	ジンメル「社会学」における集団の量的規定と 集団倫理について.....	18	19
	近代化の特質についての一考察.....	19	1
矢 谷 慈 国	体験における社会と文化の問題.....	19	43
	体験における社会と文化の問題 (II)	20	79
	道之島社会の研究 (1).....	21	109
	道之島社会の研究 (2).....	22	303
余 田 博 通	明治期山村の研究 (一).....	14	1 総
横 山 勝 英	未解放部落の社会構造的意味.....	20	93
萬 成 博 佐 原 福 磯	ホワイト・カラーの仕事における満足.....	3	7
張 宇 賀 光 夫 宇 賀 博	マス・メディアの効果と「大衆社会」論 (一).....	5	73
萬 成 博 遠 藤 惣 一	明治初期の企業家の社会的性格.....	6	53

杉原方	浮浪者にみられる酒精中毒について	9・10	219
荒川義子	浮浪者にみられる酒精中毒について (2)	12	13
萬成博	酒造りの労働の組織	15	33
牧正英			
清野正義			
倉田和四生	日本都市の機能分類1960 (その1)	17	53
T.O. ウイルキンソン	日本都市の機能分類1960 (その2)	18	1
萬成博	終身雇用制の構造・機能分析	21	67
Robert M. Marsh	現代工場における合理化と人間問題	22	137
	Rationalization and Human Problems Among Modern Factory Employees		
牧遠藤正英	地方官庁における変動過程に関する調査研究 (I)	22	121
佐々木薫	リーダーシップ・タイプが集団規範の形成に 及ぼす効果の実験的研究	22	209
山口真人			
〔研究ノート〕			
定平元四良	明治20年代の社会主義文献	3	81
宇賀博	マス・コミュニケーションの機能分析の試み	6	89
	インフルエンスの概念について	8	95
宇賀博	現代日本のキリスト教	13	135
関根秀和			
〔資料〕			
大道安次郎	「平塚家文書目録」について	4	97
藤原恵	朝日新聞社事件	14	61
蔵内数太	維新前後における備中一名主の生涯	5	118
	言語接触の問題と故春日博士の古訓点の研究	7	61
杉山貞夫	人間—機械系としてみた自動車操縦における 情報伝達過程	8	103
余田博通	溜池築造の記録 (一)	2	79
	溜池築造の記録 (二)	3	91
	溜池築造の記録 (三)	4	83
大道安次郎	日本社会学の黎明	7	41
山中良知			
大道安次郎	現代日本の牧師	11	103
大宇賀博			
関根秀和			
牧正英	神戸市在留華僑の生態	8	109
張光夫			
余光博通	講当・株講・親方子方	8	1 縦
光吉利之			
〔学界展望〕			
小関藤一郎	フランスにおける産業社会学の近況	4	73
〔書評〕			
小関藤一郎	ゆたかな労働者	21	119
L. B. Graham	“Village Japan”	6	99

〔講 演〕

大道安次郎……「人口革命」の波紋……………	4	69
E. C. Hughes ……専門職業化の問題……………	6	109
G. Balandier ……経済発展における伝統的社会と社会的勢力……………	4	59
Ira De Reid ……アメリカ人種問題における新しい要因……………	7	63
J. Duvignaud ……デュルケムと現代フランス社会学……………	8	119
竹内愛二……都市再生と住民参加……………	4	71
W. C. Lehmann……Landmarks in The Development of Social Theory from The Standpoint of The Relations of Economic and Sociological Theory ……………	4	65
Y. Delamotte ……フランス産業社会学の現況……………	6	103

〔年譜・著作目録〕

蔵内数太……………	15	125
S. M. Hilburn ……………	13	149
鈴木信五郎……………	14	75
竹内愛二……………	12	153
栃原知雄……………	21	17

発行年月日

第 1 号	昭和35年11月5日
第 2 号	昭和36年3月25日
第 3 号	昭和36年9月30日
第 4 号	昭和37年3月10日
第 5 号	昭和37年7月10日
第 6 号	昭和38年3月10日
第 7 号	昭和38年8月30日
第 8 号	昭和39年1月30日
第9・10号	昭和39年11月30日
第 11 号	昭和40年8月5日
第 12 号	昭和40年12月5日
第 13 号	昭和41年4月30日
第 14 号	昭和41年12月5日
第 15 号	昭和42年12月15日
第 16 号	昭和43年3月25日
第 17 号	昭和43年11月1日
第 18 号	昭和44年3月31日
第 19 号	昭和45年1月31日
第 20 号	昭和45年3月28日
第 21 号	昭和45年11月30日
第 22 号	昭和46年3月25日